Takaku News Letter

たくましい子　かんがえる子　やさしくできる子

高久小学校だより

Takaku E.S.

No.10　2019.1.21

猪突猛進～ただひた向きに

「猪突猛進」この言葉、「周囲の人のことや状況を考えずに一つのことに向かって猛烈な勢いで突き進む」という、本来あまりいい意味では使われなかった言葉です。子供たちにいつも話している**「考えて行動する」**とは逆ともいうべき言葉です。でも、考えているだけでは前には進めません。**今年の抱負**にこの言葉を掲げる人が多いように、ごちゃごちゃ考える前にまず行動してみる、そんな**行動を起こす**こと、**わき目も振らずひた向きに突き進む**ことを大切にする人が増えてきた表れなのかもしれません。

３学期は、短い期間ではありますが、1年のまとめであると同時に、**次年度の教育活動（教育課程）を決める**大切な学期です。教育現場にも、**「プログラミング教育」**や**「英語教育」**など新たな風が吹いていますが、あれこれ悩む前に、**まずはやってみる、行動を起こしてみる、**ことを大切にしていきたいと考えています。

学校評価アンケート

現在、**次年度の教育課程編成**に取り組んでおりますが、今年度の活動を振り返り改善を図るために重要なのが、**適正な評価**です。中でも、学校の教育活動に参画しながら、主観的・客観的に評価していただける**保護者の皆様の評価が最も重要**です。過日ご協力いただきました**「学校評価アンケート」**で頂戴したご意見を真摯に受け止め、改善を図ってまいりたいと思います。なお、評価結果と自由記述（ご意見）への回答は、近日中に配布いたします。

箱根駅伝 ～ 指導理念に学ぶ

お正月の風物詩　**箱根駅伝**で、今年、**東海大学を初優勝に導いた両角監督**。彼は、佐久長聖高校陸上部の監督時代、「部員２人。練習グランドもない。」という状況からスタートし、高校駅伝優勝など全国屈指の強豪校に育てあげ、大迫や村澤など日本の長距離界を牽引する名選手を多数輩出した名将です。彼の**指導理念は、「オリンピックチャンピオンを育てること」**であり、「駅伝は強化策の一部、マラソンに出るための通過点」という考えを持っています。「生徒に何かを押し付けたり、強制したりすることはない。自分で何のために苦しい思いをしているのかを理解すれば、自然と伸びるようになる。陸上の最後の勝負は、いかに自分を知っているかですから」と語っています。そのため、生活行動をチェックしながら自分で判断し行動するように仕向け「人間力」を磨いているそうです。**勝つことは「目標」であり、「目的」は個々の学生を、選手として人として育てる**こと。そんな、彼の教育理念こそが、強さの秘訣なのかもしれません。

土曜学習レポート

１月 19 日に、**「門松寿司」**の**鈴木三郎様**を講師にお迎えし、**「恵方巻づくり」**を行いました。鈴木様が用意してくれた、卵焼き・かんぴょう・サクラ田麩・イクラ・キュウリ等の具材を、海苔で巻いていきますが、初めて使う「**巻き簾**」に戸惑いながらも、鈴木様の丁寧な手ほどきのおかげで上手に太巻きを完成させました。

Column

コラム

今年の大河ドラマ**「いだてん」**の主人公、**金栗　四三**。彼は、日本人初のオリンピック選手（マラソン）で、国内選考レースでは**世界記録を 27 分も縮める大記録**を出した快速ランナーでした。実は明治の終わりから昭和初期にかけてのこの時代、日本にはスゴイ選手がたくさんいたのをご存じでしょうか。同じ陸上で、**100m・200m・走幅跳で世界記録**を持ち、五輪では初めて走った**800m で世界新記録で銀メダル**に輝いた**人見　絹枝**。ロケットスタートで **100m　世界タイ記録**を樹立した**吉岡　隆徳**。水泳界では、**出した世界記録が 33 回**、「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた自由形のスーパースター**古橋　広之進**。テニス界には、グランドスラム**全豪･全仏･全英でベスト４進出が５回**、**世界ランク３位**の**佐藤　次郎**。他にも、世界トップレベルの選手が多数存在しました。

体格、練習環境…、様々な面で世界との差が今以上に大きかった時代、彼らはまさに猪突猛進、一心不乱に過酷な練習を重ね、世界にその名を轟かせました。もしかすると、彼らの**目標達成への「強い意志」と「精神力」が、逆に世界を圧倒していた**のかもしれません。

東京五輪を１年半後に控え、日本スポーツ界も盛り上がりを見せ、様々なスポーツで世界レベルの活躍をする選手が増えています。彼らの熱い戦いを見ていても、最後に物をいうのは「精神力」であることを痛感します。人を動かすのも、自分自身を動かすのも「心」であり、技術や知識の指導以上に、**心を鍛える教育**を大切にしたいと感じています。

各学年の取組み
を紹介します

Topics

今月の出来事

1月

旧年中は、多方面にわたり本校教育活動に対するご支援を賜りありがとうございました。本年も変わらぬご支援ご協力を、よろしくお願いいたします。

1月 9日 お正月の行事　書の心を学ぶ

「校内書きぞめ会」

１月９日から１１日まで、学年ごとに「校内書きぞめ会」を行いました。１・２ 年生は硬筆（フエルトペン）、３年生以上は毛筆で、各学年の課題にチャレンジしました。元々は正月２日に一年の目標を定め、字の上達を祈願する行事ですが、様々な風習や伝統が簡素化され失われつつある今、息をのむほど集中して取り組む子供たちの姿に、古き良き日本の心を学ぶこうした機会を大切にしていきたいと思いました。

1月 11日 劇団四季による本格的ミュージカル

「こころの劇場」

１月１１日に、６年生がアリオスで劇団四季のミュージカル「魔法を捨てたマジョリン」を鑑賞しました。これは、子どもたちの心に、「生命の大切さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」など、生きていく上で大事なことを、舞台を通じて語り掛けたい。そんな思いに共感する多くの企業と劇団四季によるプロジェクトです。今年の学習発表会で劇団四季の「ライオンキング」を演じた子供たち。きっと特別な思いでこのミュージカルを見たことでしょう。

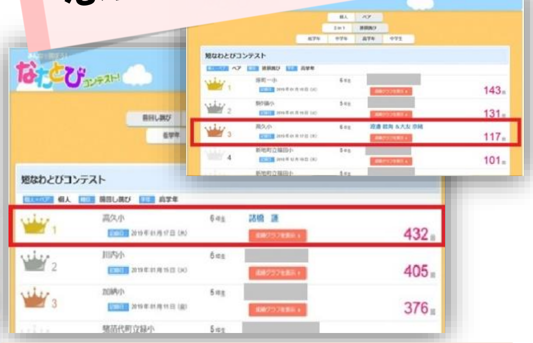
1月 15日 薬物の恐怖を知る

薬物乱用防止教室

１月１５日、６年生を対象に「薬物乱用防止教室」が行われました。保護司の**石田　冴子　様**を講師にお迎えし、薬物の怖さや依存症の恐怖、身の周りにあふれる薬物と誘惑などについてご指導いただきました。福島県は薬物乱用による検挙数が、東北でも常にワースト１位・２位という状況で、中でも いわき市はその割合が高く、他人事ではなく身近な恐怖であることを実感しました。

1月 17日 新たなチャレンジ好記録続出！

なわとびコンテスト



福島県教委主催「なわとびコンテスト」へのチャレンジを開始しました。各学校で体育の時間等に行ったなわとびの記録を登録し、県内の小学生と競い合います。「短なわ」個人・ペアの部に挑戦した６年生が、「前回し跳び」で１位、ペアの部「連鎖跳び」で３位（1/17 現在）をはじめ、ベスト１００位までに５人がランクインする等いきなり**好記録が続出**しました。子供たちのチャレンジ精神が、いろいろな力を開花させています。

行事予定

- 2/ 1 豆まき集会
- 2/ 4 租税教室（６年）
- 2/ 7 藤間中入学説明会（６年）
- 2/ 9 夏井高久地区教育講演会
- 2/16 土曜学習
- 2/18 入学説明会 ５校時限
- 2/21 放射線教室
- 2/26 縦割班で遊ぼう
- 2/27 ぼくと私のオーケストラ（4･5･6 年）
- 2/28 授業参観 学級懇談会

＊弁当の日：２月＊
７日・１８日